

【熊本県賞】

水資源を大切に

熊本県 真和中学校

1年

萩野 啓夢 はぎの ひろむ

人間が生きていくために必要なものは、衣・食・住、空気、そして水です。僕たちの暮らしの中でも水は、炊事、洗濯、入浴、トイレなどに使います。人間が最も利用する機会が多い水は、地球上の生命にとつても必要不可欠です。僕たち人間の身体は、体重の約六割が水でできています。毎日、一日に二リットルもの水が人間には必要です。人間が水を取り入れずに生きていられる日数は、約四〜五日程度といわれています。逆に、水がしっかりと摂取できていれば、二〜三週間生きることとも可能といわれています。それだけ、水が大切だということが分かります。

僕は、災害時の支援で最も先に求められるものは、水だと思っています。僕は幼稚園の年長組の頃、震度七の熊本地震を経験しました。家では、少しでも出ていた水道水はにごっていました。そのため、ご飯を作れませんでした。断水した地域もありました。飲み水や食事を作るための水、トイレを流す水などをもらうために、役場には行列ができていました。

熊本は、全国でも有数の地下水が豊富な地域です。熊本市は、水道水のほぼ百パーセントが地下水です。熊本の地下水が豊富であるのは、阿蘇の地下水が県内の多くの場所で湧いているためです。そして、菊池水源、轟水源、池山水源、白川水源の四つの水源は、日本でも有名な水源に選ばれています。しかし、熊本の地下水は、土地開発が進み、田畑や森林が減って、雨水が地下水として蓄えられる量が減っています。さらに、アスファルトが増えて、水が川に流れています。そのため、熊本の地下水は、減少しているそうです。

僕の住んでいる菊陽町には、昔、白川沿いの高台に水がなくて大変だったため、加藤清正が人工的に水路を掘った鼻ぐり井手があります。このことで、田畑に水が使われるようになり、農地が発展してきました。今、菊陽町には、台湾からTSMCという半導体の工場ができています。半導体を作るには、大量の地下水が必要だそうです。

今まで僕たちは当たり前前に水を使っていたけれど、当たり前には水が飲めない日が来るかもしれません。他県のように、川からダムに流れた水を浄水場でろ過・消毒をして、水道水として家庭へ運ばれるようになるかもしれません。そうなれば、今までのようにおいしい水を飲めなくなるかもしれません。

そうならないためにも、僕たちにできることは節水だと思います。特に僕は、歯をみがいている時や、お風呂で頭にシャンプーをつけている時に、水を出しっ放しにしていたことが多かったです。水道から出る水の量は、一秒間に約0・二リットル、三十秒で約六リットルにもなるそうです。たった三十秒で、三人分の一日の摂取量が無駄にすることになります。こまめに水道の水を止めること、蛇口のひねり方で必要な水量を調整することが、とても大切だと感じました。

熊本は水に他県よりも恵まれています。が、いつまでも続くとは限りません。熊本の豊かな資源「水」に感謝をして、大切に守っていきたくです。